

軌道解明の期待乗せて

住民手作りの巨大ロケット花火「龍勢」を打ち上げる県無形民俗文化財「朝比奈大龍勢」が十五日、藤枝市岡部町の休耕田であった。科学教育に力を入れる市は、静岡理工科大機械工学科の増田和三教授と連携し、飛ぶ仕組みを解析する実験を初めて行った。朝比奈大龍勢は戦国時代ののろしが起源とされ、二



やぐらから勢いよく飛び出す龍勢＝藤枝市岡部町で

藤枝で朝比奈大龍勢

年に一度開かれる。地元の十三地区が各自、長さ十五メートルほどの龍勢を竹などで計二十八本作り、やぐらから打ち上げた。増田教授は三本の龍勢にセンサーを付け、飛ぶ際の姿勢と軌道に関するデータを収集。学生たちと解析し、十二月に地元の朝比奈第一小学校で解析結果を交点火すると、白煙を上げながら秋空に向かって勢いよく飛び立った。先端には落下傘が詰められており、上空でタイミング良く飛び出すと、観衆から歓声が上がると、

市は各地の公民館講座などで解析結果を紹介する予定。

(佐野周平)